

全国専修学校一般課程各種学校協会研修会 令和4年6月7日 東京・アルカディア市ヶ谷

生涯学習カレッジ認定講座掲載にかかる経緯について

学校法人早稲田学園 早稲田予備校 守谷たつみ理事長

学校法人早稲田学園 早稲田予備校 戸村将文課長



【コロナ禍でのオンライン授業】

早稲田予備校理事長の守谷たつみと申します。本日は当校の戸村将文課長と「生涯学習カレッジ認定講座掲載にかかる経緯について」をテーマお話しさせていただきます。よろしくお願いいたします。

当校は、コロナ禍による休校に伴い、2020年、やむを得ない状況でオンライン授業を開始しました。しかしながら、このオンライン形式の授業は始めてみると、予想外に誠に有効な授業形態であることが分かりました。今後はオンラインが学校授業の主流になる可能性が高いのではないかとさえ感じています。今回のコロナ禍に対応した一時だけのオンライン授業ではなく、さらに進化・活性化して主流になり、一条校においてもどんどん取り入れていく時代が到来するでしょう。実際に2024年度からは全ての生徒がタブレット端末見ながら授業を行い、教科書の一部もオンライン教科書になるなど、本格的なオンライン化がスタートします。

ここまで来ると、全ての授業が以前の対面形式に戻る事はあり得ないとさえ思われます。この状況下で、我々はどのようなオンライン授業を始める必要があるのでしょうか。さらに「今から始められるオンライン授業とは？」といった点について、当校で実際に行うオンライン授業の内容を検証してご紹介がするのが本講演です。

全国専修学校一般課程各種学校協会が実施する生涯学習カレッジ認定講座は、『生涯学習事業を広く社会へ知らしめるとともに、その事業を普及・推進することにより生涯学習社会構築及び地域社会への貢献に資する』ことを目的としています。

今年度のこの講座一覧に、当校の一般向け映像講座「英語をより深く考えるための英文法～永田の遺言」と「前置詞から考える英文法～永田の遺言2」という2つの講座があります。これらは大変好評なオンライン講座で、受講料も通常の予備校の対面式の受講料単価とほぼ同額、高めの料金設定にもかかわらず成功しておりますので、その実証についてお話しします。

そもそも私はオンライン授業というものは、全てがオンライン化しないと上手くいかないし、ネット完結できるオンライン授業にするべきと考えています。

例えば、オンライン授業の受講希望者が紙の願書を持って来校し、受講申し込みを行うケースはまず無いでしょう。希望者はスマホで講座を探してネットで出願し、カードで決済し、Zoom等の準備を整えた上で、実際に受講するというパターンが主流です。

一般的な予備校や塾は、今や全てがネットで完結できないと人が集まりません。以前からの紙媒体でパンフレットを作成して配布、受講希望者は申込書を郵送またはFAXで送るといった時代は終わりました。まずこの点を押さえておかないとオンライン受講者は来ないと考えます。全てをスマホやタブレットで対応できる環境を整えるという点に、オンライン授業成功のポイントがあると私は考えています。

もう一点、オンライン授業を行うにあたって重要な事項があります。

対面式の授業で必要とされていた、黒板とチョーク、机と椅子、ノートや鉛筆等は、明治時代以降の学習形態で使用され始めた物です。江戸時代までは写経や書写、講和を聞く、素読するのが基本的な授業形態でした。これらは一見、過去のやり方のようにですが、考えてみると全部がオンラインで可能な学習形態だと気づきます。明治以降の教育目的には富国強兵があり、同種の人材を大量に育成する目的において黒板等を使用した授業は効果的な学習方法だったでしょう。ところが最近では、逆に個性を生かして多様性を持った教養ある人間を育成しなければならない社会になってきました。現代においてどのような教育が良いかを考えた時、明治以前の教育へ立ち返り、それを新しい方法で行うという発想が出てきました。社会の大きな変化の中、大量生産大量消費のための教育から、個性を引き出せるような新しい教育へ変わっていく、その中でオンライン授業を活用するか問題が顕在化しています。

実際にオンライン授業を実施してみると、受講者が授業に飽きるのが早いように感じます。やる気、モチベーションをいかに持続させるかが課題になっているのではないのでしょうか。テレビでも「やる気スイッチ」といった表現が生まれ、求められていると分かります。教育もオンライン授業を想定した指導に変化しつつあると思います。

その一つの教育方法が個別指導です。現在では大学生アルバイトの先生がオンライン授業を見せながら指導していく、という方法が塾の指導の主流になってきました。それは「やる気スイッチ」を押すのは生徒の傍らにいる大学生で、スーパー講師によるオンライン授業を見せながら、授業に飽きないよう学習させる仕組みです。現在、最も素晴らしい学習方法とも言われています。さらにもう一步進んで、その大学生アルバイトをAIに代える動きも出始めています。例えば、生徒がやる気が落ちてきたり、考えに迷っている場面をAIが感じ取って、パッと画面にアドバイスを出示したりする方法も一部で始まっています。個別指導塾では広告宣伝文句の中に「AI導入」と謳った方が人気が出るという現象さえ起こっています。こうなると、全ての学校が導入せざるを得ない状況になるかもしれないと我々は危惧しています。

では、どうすればオンライン授業は手軽に開始できるのでしょうか。私は、考えるよりも先にオンライン授業を始めてみるのが早道だと考えています。今日は当校の経験から、最も手軽に映像によるオンライン授業を導入できる方法を、ご紹介したいと思います。

【講師との出会いとオンライン授業開始までのプロセス】

私は早稲田予備校本部で教務や広報業務を担当している戸村将文と申します。

当校のオンライン授業の詳細について説明させていただきます。今回、映像授業の作り方がテーマですが、特に「手軽な」というポイントについてお話しします。

オンラインによる映像授業というと、大きなカメラや配信用の設備が必要で、ハードルが高いと考えておられる方も多いでしょう。しかし、今回の講座は、家電量販店で買える小さなホームビデオカメラを使用し、テキストだけ一人一冊ずつ作成しました。他にはホームページから受講申込できる準備を整えただけです。改めて願書を作成したり、パンフレットを作成したりといった準備はなく、早稲田予備校のホームページに一枚物の募集記事を掲載し、そこから申し込みできる準備を整えたただけでした。

手軽な映像授業の作り方と検証

映像講座『永田の遺言』シリーズ（英語をより深く考えるための英文法【90分×24回】、前置詞から考える英文法【100分×12回】）

【講師 永田達三】

① 東京外国語大学入学後中退後、3年間渡英。帰国後、早稲田大学法学部卒。

② 早稲田ゼミナール、東進ハイスクール、永田塾などに出演。現在早稲田予備校に出演。東進ブックス、研究社、桐原書店、学研などから著書多数。



【映像講座】

- ① インターネットによるオンデマンド映像講座
- ② 早稲田予備校 HP > 永田映像講座ページ から随時申込
- ③ 入金の後にお知らせする ログインID(学籍番号)で視聴

学籍番号
パスワード

ログインする

費用面でみると、支出は講師への謝礼とテキスト印刷代程度です。広報・PRもツイッターによる拡散やYouTubeに先生のチャンネルを作ってそこから誘導する形にしたため、ダイレクトメール等は必要なく、ホームページ作成費用のみでした。マンパワーの面でも基本的な作業は私一人で行えたため、他の人件費はかかりません。作成はほぼ講師と私の2人で行いました。

収入面では、初公開したのが2020年11月で約1年半経ちますが、開始当初の申込人数をピークに少しずつ減少したものの、「永田の遺言シリーズPART1」は、現在60名の申し込み者があります。受講費用は8万円で割引等はありません。PART2も既に10名の申し込みがあり、受講費用は4万5千円で、やはり割引はしておりません。まだ小さな規模ですが、ある程度の安定した収入もあり、今後拡大していけば、色々な活用ができると考えています。

私が学生だった当時、永田達三先生は予備校業界で有名な教師でした。私は講師の採用も担当しておりますが、2019年に永田先生からご応募がありました。先生は当時65歳で、若い学生とうまくコミュニケーションが取れるか少し心配でしたが、今回のオンライン授業の受講生は学生というより、当時、教え子だった人達がメインになっており、順調に授業を進めています。

採用時に、著書もたくさんお持ちで予備校の看板だった有名な先生が、なぜ当校へ応募されたのですかと質問したところ、ご自身のお住まいが高田馬場で、当校の近所だったから応募してみたとのことのお返事でした。先生はご自身のご病気のために2009年に一旦引退されたのですが、天職なのでしょう、回復に伴い当校に応募されたそうです。永田先生は元々、東京外国語大学に入学してすぐに中退された経歴をお持ちで、その後すぐに3年間、イギリスのあちこちで英語を吸収されたそうです。先生の言葉によると、ホテルのアルバイトをしながら時間のある時に公園に通っていたところ、そこにいたホームレスの中に、元オックスフォード大学の教授だった方がいて、その方とのやり取りの中で英語について多くを学んだそうです。

帰国して早稲田ゼミナールという学校で出演、その後、開校したばかりの東進ハイスクールに引き抜かれ

れました。当時の人気講師の授業料の相場と比較しても、その数倍の授業料で出講されていたと聞いています。先生の当時の教え子や著書の愛読者が多かったことで、今回の映像授業にも関心を持っていただけたと思います。

次に映像講座の概要についてご紹介します。現在、高等学校等でオンライン授業を行う場合は Zoom を使用したライブ形式が圧倒的に多いようです。しかし今回、私達が選択したのはオンデマンドという形式でした。視聴契約をしてもらい、インターネットへの接続を通じて自分の好きな時に好きな番組を視聴できるというものです。視聴申込はホームページ内の入力画面を利用します。今後はカードでの決済も可能検討していきたいと考えておりますが、現状はメールで振込の案内し、入金をお願いしております。当然と言えるかもしれませんが、私はこの講座の受講者に一人も直接お会いしたことがありません。このシステムは学校側の手続きは簡単ですが、逆に、直接、受講者の感想等を聞く機会が無いのが問題と考え、受講後にアンケートを送付して記入をお願いしています。感想は聞けても、受講者の職業や受講の動機や目的が分かり辛いという点に、通学生と比べると、もどかしさがあります。

振り込みが完了すると、ログインIDをお知らせして視聴が可能になります。学校のホームページ上部の「オンライン視聴」をクリックして、自分で設定したパスワード等を入力して視聴へと進みます。

学校のホームページ経由で視聴できるようにしたのは、元々当校にあった、授業欠席者や復習希望者のためのバックアップ用録画のシステムを利用したためです。当初は授業のビデオテープを3カ月間保管していましたが、それを第2段階としてコンパクトなDVDに置き換えました。しかしDVDが貸出中だと他の学生は視聴できないという問題があり、そこで第3段階として、校内のコンピュータに取り込んで視聴可能にしました。さらにコロナ禍が契機となり、通学が不安だという生徒が増えたためインターネット上で公開することにし、ホームページでパスワードを入力して視聴できるようにしたのが、第4段階の現在です。

【技術の進化が導入を容易に】

続いて技術面についてご説明します。私が全てを準備したのではなく、eシステムというパソコン関係を担当している部署に協力してもらいました。①機材はデジタルビデオカメラとマイクを使用し、他には三脚を立て、簡単な照明を用意しました。照明電球10個位を並べて、黒板の前から照らすもので、照明機材を買ったのではなく、電球をたくさん購入した程度です。

録画時には、カメラに向かって先生一人だけで授業を行うのも可能ですが、反応があった方が授業を進めやすいとのことで、私は後ろの方から、頷いたり反応したりして参加しています。

録画後には無料動画の編集ソフトを使用します。私はムービーメーカーというソフトを使用しましたが、検索すると良いソフトがたくさん出てきます。色々なソフトを試してみたいかと思えます。これらの編集ソフトは、タイトルや字幕、エンドロールを付ける、画面を切った繋ぎ目が目立たないように2つの画面を繋ぐ加工も簡単にできます。現在は私一人がこの作業を行っていますが、ソフトの説明書を読まなくても作業できるレベルです。専門的な知識がなくても基本的な操作はできると思います。そしていよいよ編集した録画データをホームページにアップできる状態になります。

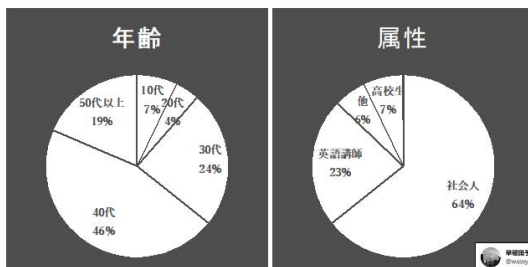
対外的な問題として懸念されたのは、公開した画像を無断でダウンロードしたりコピーしたりして勝手に使用されてしまうという点でした。そこは社内でのeシステムと協力して討議、MP4形式からHLS streamingというファイル形式に変更して、コピーしにくいファイルにしました。これも特別な準備ではなく、既存の無料ソフトを使用して加工できます。その他、細かく言えばログインIDやパスワードを共有し複数で視聴されてしまう可能性等もありますが、ある程度は防止できていると思います。

【技術面】

- ① デジタルビデオカメラ+マイクで収録
 - ② 無料動画編集ソフト(Movie Maker)で加工
 - ③ HPにログインID限定で公開
- ※ダウンロードやコピーを防止するため、ファイル形式を「MP4」→「HML(Http Live Streaming)」に無料変換ソフト(FFmpeg)で変換

【内容面】

- ふだん英語を教えている方、英語に興味がある一般の方々、意欲的な受験生など、「受験英語を少し超えた」講座。



<早稲田予備校 Twitter>

【広報面】

- ① 早稲田予備校各校舎 Twitter
- ② 早稲田予備校 HP
- ③ YouTube「永田達三チャンネル」
- ④ 専各協「生涯学習カレッジ認定講座」HP



【ハイレベルな講座に集まった受講生】

永田先生の授業の視聴者には元教え子や著書の愛読者、英語の先生等が多いと先ほど申し上げました。その理由は、一般の予備校の授業としては授業のレベルがかなり高いこと、受験に関して必須の学習内容の域を少し超えていることです。これまで先生は、「教えたい内容はたくさんあるけれど、なかなか生徒がついてこれない。授業ではかなりレベルを落とさざるを得ない。」と仰っていました。それなら先生の実力をフルに生かせる授業を作ろう。その代わりに永田先生のレベルについて来られる生徒だけを集めようと決めました。その結果、ハイレベルな視聴者をターゲットとした講座となり、英語を教えている方、英語に興味がある一般の方、意欲的な受験生等を対象として実施しています。

申し込み時に記入された年齢や属性をみると、10歳代、20歳代はほとんどおらず、30歳代24%、40歳代が46%となっており、多くがかつての先生の教え子だと分かります。属性は社会人、英語講師が多く、今も英語を使っている方ようです。その他は6%いますが、大学生や大学講師、准教授の方々です。

【最後に、広報はSNSをフル活用して】

広報に関して最後にお話しします。講座の趣旨からダイレクトメールは作成せず、授業内容は当校のTwitterを用いてまず拡散しました。永田先生は以前、ご自身で「永田塾」というものを運営しておられました。その時に従業員として一緒に働いた英語の関正生先生、日本史の伊藤賀一先生は、最近話題のリクルートのスタディサプリの看板講師になっています。永田塾から立派に独り立ちされた先生方のリツイートも期待しつつ、Twitterに永田先生が復活するという内容を書きました。予想通りのリツイートもあり、全国にぐっと広がっていった気がします。実際の生徒募集に繋がったかどうかは不明ですが、告知に役立ったのがTwitterでした。



その他、早稲田予備校のホームページに永田先生の映像講座の紹介ページを設けています。分かりやすいように授業風景の抜粋、動画のサンプルも掲載しています。1～2分を切り取って、先生の授業の良さが伝わるように作りました。

YouTubeも授業公開後に開始しました。まだ1年ほどですが、授業のサンプルを公開し、興味がある方は見て下さいと画面の下方にリンクを付けています。再生回数は全部合わせて77,000人位です。「永田達三チャンネル」になっていますが、運営は早稲田予備校が行っています。先生の名前のチャンネルにした方が、大勢のファンが付いてくるというユーチューバーのアドバイスに従い永田先生を前面に出し、小さく「Produce by 早稲田予備校」と書いています。現状では月々1本程度配信しており、まだ30本程度ですが今後も増やしていく予定です。講座はシリーズになっており、文法と前置詞が終わりましたが、今後は長文なども予定しています。

私からの映像授業についての説明は以上になります。
ご清聴ありがとうございました。